

令和元年度 糸魚川市中学生広島派遣研修の概要

1 目的

唯一の核被爆国の国民として、被爆の恐ろしさ、苦しみを伝えるとともに、次代を担う子どもたちの未来のために、平和で豊かな暮らしを認識することを目的とする。

2 派遣先

広島市

3 派遣期間

令和元年8月5日（月）～7日（水） 2泊3日

4 参加生徒

No.	氏名	ふりがな	性別	学校名
1	石塚 太智	いしづか たいち	男	能生中学校
2	西 五竜	にし ごりゅう	男	
3	上野 友希恵	うえの ゆきえ	女	糸魚川東中学校
4	古市 樹	ふるいち いつき	男	
5	小澤 彩羽	おざわ いろは	女	糸魚川中学校
6	川原 大和	かわはら やまと	男	
7	杉澤 智花	すぎさわ ともか	女	
8	北口 日菜	きたぐち ひな	女	
9	齋藤 あやめ	さいとう あやめ	女	青海中学校
10	池田 ちひろ	いけだ ちひろ	女	
11	松永 心和	まつなが ここな	女	

5 引率職員

No.	所属	職名	氏名
1	こども教育課	指導主事	水澤 哲
2	福祉事務所	高齢係主査	飯田 亜紀
3	総務課	行政係主事	松澤 愛

6 実施経過

5月末	参加生徒、担当教諭の選出
6月21日(金)	担当教諭打合せ会
7月23日(火)	事前学習会
	保護者説明会
7月24日(水) ～8月2日(金)	各中学校で作製した千羽鶴を市役所本庁舎 市民ホールに展示
8月5日(月) ～7日(水)	広島現地研修
8月21日(水)	研修報告会
2学期以降	各学校での研修報告会

7 広島現地研修スケジュール

－ 1日目 － 8月5日(月)

時刻	行程
6:20	出発式(糸魚川駅自由通路)
6:48	糸魚川駅 発(金沢駅・新大阪駅乗換え)
12:26	広島駅 着
14:30～16:45	平和記念公園見学(千羽鶴献納)
	平和記念資料館見学
17:00～18:00	被爆体験講話聴講
18:15	旅館 着

－ 2日目 － 8月6日(火)

時刻	行程
6:30	旅館 発
7:50～8:45	平和記念式典参列
10:40～13:50	宮島・厳島神社見学(昼食)
15:00	旅館 着

研修の概要

15：00～17：00	とうろう作成（旅館内）
17：15～18：15	旅館 発、夕食（お好み焼き店）
18：30～19：30	とうろう流し
20：00	旅館 着

－ 3 日目 － 8 月 7 日（水）

時刻	行程
8：00	旅館 発
9：10～10：30	広島城見学
12：06	広島駅 発（新大阪駅・金沢駅乗換え）
17：39	糸魚川駅 着
17：45	帰還式（ジオパル）

平和というもの

能生中学校 2年1組 石塚 太智

私は、糸魚川市広島派遣事業に参加しました。参加した動機は1年生の時に『大人になれなかった弟たち』という作品を学習している中で、「2年生になって、広島に行ける機会があれば現地に行き、学びを深めたい」という思いと、「平和とは一体何か」という自分に対しての問いを解決したかったからです。

8月5日から8月7日までの3日間の派遣期間で心に残ったことが2つあります。

1つ目は、1日目の平和記念資料館の見学です。

今年リニューアルされた平和記念資料館には、爆風や熱風によって焼け焦げた衣服や原爆が投下された8時15分のまま止まってしまっている時計など、心が痛む展示物が数多くありました。

改めて原爆による被害の大きさ、被爆された方々の苦難な生活の実態などについて考えさせられました。今、私たちが、こうして私生活を楽しく過ごせていることが、どれほど幸せかを痛切に感じました。

2つ目は、2日目の広島平和記念式典の参列です。

平和記念式典には内閣総理大臣をはじめ、外務大臣や広島市長などが来賓として参列しており、一般の方は約5万人が参列していました。

中には、多くの外国人の方も参列されていて、参列国は過去2番目に多い92か国に上ります。このことから世界中のだれもが恒久平和を願っていることがよくわかります。

そして、式典内での来賓の方々の言葉にも「世界平和のために…」という言

葉が多くありました。私たちが、世界平和のためにできることは何かを改めて、平和記念式典で考えさせられました。

今回の広島派遣事業では、私たちが原爆・戦争のことについて語り継いでいくことの大切さを感じました。現在の被爆者の方の平均年齢は82歳となり、後世に語り継いでいく人材が減少しつつあります。

二度とあの過ちを繰り返さないためにも、そして世界恒久平和のためにも、これから私は派遣で学んだこと感じたことを語り継いでいきます。

1日でも早く核兵器が廃絶され、世界中に笑顔があふれる日を願って…。

今回の派遣にあたり、一緒に参加してくれた10名の生徒のみなさん、引率してくださった糸魚川市役所の総務課、こども教育課、保健師のみなさん、本当にありがとうございました。

戦争と平和

能生中学校 2年2組 西 五竜

1日目、まず平和記念公園に向かい原爆ドームなどを見学しました。公園内にある「原爆の子の像」の周りに全国から届けられた鶴が納められています。とても色とりどりで、一つ一つ丁寧に折られていたことに平和への大きな願いを感じました。

その後、平和記念資料館に移動しました。そこでは写真や遺品などから戦争の悲しい現実を知りました。被爆によって背中がただれてしまった人や、体中に斑点ができてしまった人などの写真は今でも頭から離れません。ここで感じた核兵器の恐ろしさは一生忘れないでしょう。

1日目の最後は、当時生後9か月で被爆された佐久間さんのお話を聞きました。佐久間さんのお話の中で印象に残ったことが2つあります。1つ目は被爆者というだけで差別を受けていたことです。佐久間さんをはじめ、核の脅威の中を生き抜いた人々は、その後の人生もつらく暗いものでした。「放射線はうつる」などという言われもない理由で社会から遠ざけられていたそうです。そんな悲しい現実を作り出してしまった原爆はもちろんですが、差別的な感情を抱いてしまった当時の社会に憤りを感じました。

2つ目は、核兵器は「絶対悪」であるということです。核が抑止力となって世界のバランスがとれているのだから「必要悪」であるという主張もあります。ですが、このような世界の中では小さな衝突でバランスが崩れ、抑止力であるはずの核兵器は一瞬で凶器となってしまいます。ならば最初から核兵器のない本当にバランスのとれた世界を追い求めていくべきです。政治的なことに関しては、私たちには分からないことばかりですが、インターネットを通して情報が飛び交っているこの時代です。自ら知ろうとすることや、平和への道が見つかったときに賛成の声を上げていくことは、私たちにもできることではないでしょうか。この1日目に感じた原爆や戦争の恐ろしさは平和について考える上で大きな土台となりました。

2日目、平和記念式典に参加しました。式典は朝早いにもかかわらず、多くの人が会場に足を運んでいました。特に外国人の方の多さには驚きました。世界的な平和意識の高まりを感じ、日本人としての在り方も考えさせられるようでした。式典内の広島市長のお話の中に、こんな一節がありました。「一人の力は小さくても、多くの人が結集すれば大きな力になる。」この言葉から、私は一人でも多くの人にこの学び伝えていこうと強く思いました。だれか一人に伝えれば、それがネズミ算式に広がっていくと思います。なので、私たちが伝えたことをまた次の人につなげてほしいです。

平和記念公園の横には、川が流れています。私たちは、そこに平和への祈りを込めた灯籠を流しました。暗闇に浮かぶたくさんの光は、やがて遠くに消えていきます。それはまるで一夜のみ姿を現した死者の魂が、私たちに何かを語り掛けてくるかのような不思議な時間でした。そして、灯籠には平和へのメッセージをのせます。私はこう書き綴りました。「身の回りの小さな平和が大きな平和に」

平和記念式典の子ども代表の言葉には、「認め合い助け合うことで相手を知ることなどが身の回りの平和につながる」との内容がありました。一度自分の身の回りのことを考えてみることは、平和を考えることでもあると思います。

この2日目は、平和実現のために自分たちができることを考えられた1日になりました。

今回の派遣に参加した私たちは、平和への架け橋とならなければいけません。未来への伝承者として笑顔のあふれる世界を追い求めます。つらく暗い過去は、明るい未来へと変わっていきます。

伝えていく

糸魚川東中学校 2年2組 上野 友希恵

私は、テレビのニュースからでしか原爆については知りませんでした。

そこで私は、何が起こり、どうなったのかを自分でもっと知って、みんなに伝えたいと思い広島派遣研修に参加しました。

今回の研修で印象に残ったことが3つあります。

1つ目は、広島平和記念資料館の見学です。

資料館の展示品は、戦争や原爆の悲惨さを物語っていました。子どもの焼け焦げた服やぼろぼろの三輪車を見て、私は言葉が出なくなっていました。他の展示品からも原爆の恐ろしさが伝わってきました。

2つ目は、被爆体験講話です。

実際に被爆された、佐久間邦彦さんがお話をしてくださりました。当時生後9か月の佐久間さんは、爆心地から3キロメートルの自宅で被爆し、黒い雨に遭ったそうです。そこから原爆に対する思いを話してくださりました。この講話を聞いて、私は戦争や原爆は二度と起こしてはいけないことを必ず伝えなければならぬと思いました。そして、私が伝えた人からまた誰かに伝えていくことで、たくさんの人に戦争や原爆について考えてもらいたいと思いました。

3つ目は、平和記念式典です。

式典には日本人だけでなく、国外からもたくさんの人が参列していました。

子ども代表の平和への誓いでは、「私たちは、大切なものを奪われた被爆者の魂の叫びを受け止め、次の世代や世界中の人たちに伝え続けたい。『悲惨な過去』

を『悲惨な過去』のまま終わらせないために。二度戦争を起こさない未来にするために。」この言葉が一番心に残りました。

今の世界は、まだ完全に戦争が起きないとは限りません。世界では、まだ核兵器をつくっている国がたくさんあるからです。核を使い、平和をつくろうとする国を一つずつなくしていくために、一人ひとりが原爆の恐ろしさを伝えていかなければいけないと思いました。

私は、今回原爆について知り、それをみんなに伝えたいと思い、参加しました。しかし、派遣研修を終え平和な国にするために、自分に何ができるかを考えるようになりました。平和な世の中にするには願うだけでは叶わないと思いました。

でも、願ってからがスタートでそこから行動することが大切だと思いました。

そして、核兵器を使わないために、戦争や原爆の恐ろしさを知ってもらうために、私はこの広島派遣研修で学んだことを家族やみんなに伝えていきたいです。

世界平和のために

糸魚川東中学校 2年2組 古市 樹

私は、広島派遣研修に参加させていただき、感じたことが多くあります。

まず、平和記念公園では、原爆投下直後の様子や公園の下に当時の土地や亡くなった人の骨などがそのまま残っているという話をガイドさんから聞き、核兵器は本当に恐ろしい、この世にあってはならない物だと身を持って感じました。

次に、平和記念資料館では、当時の写真や展示物を見学しました。当時のまま保管された被害に遭った人の服や三輪車などたくさんの物を見て、胸が締め付けられるような気持ちになりました。

被爆体験講話では、当時生まれて9か月だった佐久間さんが、お話してくださいました。

佐久間さんは、爆心地から3キロメートル離れた所に住んでいました。原爆が投下されてから、佐久間さんは、母親とすぐに山林に逃げました。

山林に逃げている途中で黒い雨が降ってきたり、家に帰ると爆風で傾いたりしていたというお話を聞き、爆発はすさまじい威力だったことに驚きました。

また、原爆の被害に遭った後も、被害に遭った人に対して偏見があったり、後遺症で病気になってしまったり、すごく苦しんでいたことが分かりました。

そして、原爆が投下されてから74年経った今も、原爆の影響は続いていて、被害に遭った人の心の傷は深いことを知りました。

最後に、平和記念式典では、実際に原爆が投下されたのは日本だけですが、

他国の人々もたくさん式典に参列していて、みんな核のない世界を願う思いは一緒だということが分かりました。

平和宣言などを聞いて、核兵器を持つ国がたくさんあることを改めて知りました。

今もまだ、世界各地では戦争によってかけがえのない多くの命が失われています。なので、私たちは、唯一の核被爆国の国民として、今回の広島派遣研修で学んだ、原爆の恐ろしさ、苦しみを伝えることが大切だと思います。

いつか世界平和につながることを信じ、たくさんの人々と関わっていきたいと思います。

広島派遣に参加し学んだこと

糸魚川中学校 2年1組 小澤 彩羽

74年前の8月6日、8時15分。眩しいほどの一瞬の閃光。何万度もする炎の球から強烈な放射線と熱線、そして爆風。もくもくと立ち昇ったきこ雲の下で何の罪のない多くの命が奪われ、街は破壊しつくされました。広島の人々の脳裏に焼きついた、まるで地獄絵図のような自分の街と放射線障害は、生き延びた被害者達の心身を蝕み続け、今なお苦しんでいる人たちがいます。

私は小学校の頃に「はだしのゲン」という本で広島について興味が湧きました。また、近年アニメ化した「この世界の片隅に」を見て原爆の事を知りました。この広島派遣は、平和の事や広島の事について知るいい機会だと思い参加しました。

私は行く前にもう広島の話はたくさん知っていると思っていました。しかし、そこは私の予想をはるかに上回るものがありました。

私達が1日目に訪れた平和記念資料館では、亡くなった方達の遺品や当時の写真があり、被害の大きさ、被爆者たちの思いがとても伝わってきました。

特にボロボロになった服や三輪車は、数多くの原爆の爪跡として残されていました。

被爆体験講話では、佐久間さんからお話を聞きました。原子爆弾の威力や被害時の様子について詳しくお話くださいました。

生後9ヵ月で「黒い雨」にあい、成人後に上京されたようですが、「広島の人」というだけで偏見の目にさらされたそうです。

また、原爆のことは口にするだけでも苦しいことだと、感じました。

2日目の平和記念式典に参列し、平和を願う人達の思いを強く受け取りました。外国の方もとても多く、その雰囲気を見て、このようなことから世界に平和が広がっていくんだな、と感じました。

また、とうろう流しでは、平和への願いを込めて流すことができ、心に残る体験になりました。

これからの世界が平和であり続けるために、私達にできることはあるのでしょうか。私達は世界を動かす力はありませんが、身の周りで私達ができることはたくさんあります。

例えば、いじめやケンカなどのささいな争いごとをしないなど、他にももっともっとあると思います。

自分たちにできることは小さいけれど、それを多くの人ができればとても大きな力になると思います。私自身ができることを進んで精一杯やっていきたいです。

広島で感じた思い

糸魚川中学校 2年2組 川原 大和

私は終戦から60年後に生まれました。だから、戦争のことをよく知りません。この広島派遣研修では当時の状況や戦争の恐ろしさ悲しさなどを学び、これから自分にできることを考えられると思い、参加させていただきました。その中でとても心に残っていることが3つあります。

1つ目は、広島平和記念資料館です。原爆の威力によってボロボロになった三輪車やシャツなどの展示物のほか、背中の皮膚が垂れ下がった人、放射線による影響で顔に黒い斑点がたくさん出てきている人の写真、血だらけになって苦しそうに歩いている人の絵などがありました。今まで自分が考えていた以上の当時の様子に、私は怖くて心がとても苦しくなりました。

2つ目は、当時1歳になる少し前で被爆した佐久間さんによる被爆者体験講話です。佐久間さんは原爆による黒い雨に当たった影響で、小学校4、5年生の時に小腸の病気になってしまったそうです。そして大人になり、東京にお付き合いする彼女ができたそうです。その彼女の家に誘われて玄関で待たされていたとき、彼女と彼女のお母さんが話をしているのが聞こえたそうです。それは、彼女のお母さんが、「広島の人?」「なぜ!？」と、驚いている様子だったそうです。佐久間さんはそのことがショックで、彼女と別れて広島に帰って来てしまったそうです。私はこのお話を聞いて理不尽さを感じました。原爆は時間がたっても後遺症を残したり、人に偏見を与えてしまったりすることを知りました。佐久間さん達が行っている核兵器廃絶運動は、私達子供にもできることです。核兵器が人類に及ぼす被害がどれだけ大きいかについて、どのように周りの人に伝えればよいかも考えることができました。

3つ目は平和記念式典です。外国の方も含め、とても多くの人に参加していました。こんなにも多くの人々が平和に対する思いがあるのだと感じました。さらに私はこども代表による平和への誓いで言っていた、次の言葉が印象に残り

ました。それは、『悲惨な過去』を『悲惨な過去』のままで終わらせないために。」です。

平和はただ望んで何もしないままでは訪れません。多くの人に原爆の恐ろしさを伝えることが大事だと思いました。そして、今私たちにできることは自分の周りから平和にすることなのだと学ぶことができました。

この広島派遣研修では、私が想像していた以上の戦争、原爆の恐ろしさなどを知ることができました。原爆投下から74年たち、被爆者の平均年齢が82歳を超え、毎年5千人も被爆者の方が亡くなっている中、私達が次の世代へ伝えていく時が来ています。今は周りの人や友達に広島で見たり聞いたり感じたりしてきたことをきちんと伝えることが、この広島派遣研修に参加した私達の責任だと思います。

日本は唯一の被爆国として、核兵器廃絶に向けて努力する責任があると思います。それなのに日本は国際連盟でできた「核兵器禁止条約」に批准していません。

それは日本がアメリカなどの核兵器を持っている国の前で「核兵器反対」となかなか言えないからです。核兵器は持っているだけで、他の国との関係にも影響を与えてしまうのです。それでも核兵器はあってはならない絶対悪なのだから、世界から無くさないといけません。74年前のことを繰り返さないために、私は平和な未来に向けて、周りの人に原爆の恐ろしさを伝えていきます。

平和に向かって

糸魚川中学校 2年2組 杉澤 智花

私は、今回の広島派遣研修で広島への原爆投下という悲しい出来事をたくさんの人に伝え、核兵器のない平和な世界に変えようとしている人は日本だけではなく、世界中にたくさんいることを知り、それがとても大切なことだということ学びました。

今、核兵器廃絶は世界の大きな課題であり、解決することは非常に困難な状況です。でも、平和記念式典において、子ども代表で演説をしたある学生が『悲惨な過去』を『悲惨な過去』のままで終わらせない」という言葉から、どんなに難しくても、必ず過去の失敗を活かして核兵器のない平和な世界をつくらなければならないと強く思いました。

平和は願うだけでは叶いませんが、まず、願うことが平和への道の第一歩だと考えます。そして、次に行動に移すことで、少しずつ進んでいけると思います。これは、今の私にできることです。広島へ行き、現地の方々、平和記念公園、資料館、式典などから、たくさん原爆についてや平和への思いについて知り、学びました。

そして、平和を願いました。糸魚川へ戻ってきて、広島で学んだことや感じたことを家族や友達など、周りにいるたくさんの人に伝え、行動に移すことが自分にはできると思いました。

平和を叶えるためには、小さい一つひとつの行動の積み重ねが大切です。

私が伝えられる人は少ないですが、より多くの人に広めていきたいと思って

います。

そうすれば、平和記念式典で広島市長が訴えていた平和記念宣言にあったように「一人の力は小さくても、多くの人力が集結すれば願いが実現する」と、私も思います。

そして、国籍、人種など関係なく協力することで、さらに大きな力になると思うのです。

しかし、事実は現地に行ったことがない人でも伝えられますが、実際に現地に行き、肌で感じなければ伝えられないことも多くあります。ですから、世界中の人が、全員が一度は広島を訪れてほしいとも思いました。

核兵器は一瞬にして多くの命を奪うことができるだけでなく、心にも深く傷をつけてしまう、本当に恐ろしいものです。

しかし、今、世界のある国や地域では核兵器を使い、脅し合い、平和のバランスが保たれているのが現状です。私は脅し合いでは世界は決して平和ではないと思います。

なので、核兵器が廃絶され、核兵器のない本当に平和な世界になってほしいと願っています。この願い叶えるために私は、今回の広島派遣研修を活かし、行動していきたいです。

私が広島で感じたこと

糸魚川中学校 2年4組 北口 日菜

私が広島派遣研修に参加した理由は、唯一の被爆国である日本の広島、長崎でどんなことがあったのか、をその地で学びたかったからです。

そして、母に聞いた広島の話をも自分の目で確かめたかったからです。母も昔、広島に行ったことがあり、その時のことを話してくれたことがあります。それがとても衝撃的だったのです。

私が広島で学んだことは3つあります。

まず1つ目は、平和記念資料館の見学です。

平和記念資料館では、目を疑うような展示が数多くありました。例えば放射線を浴びて皮膚がただれている写真、原爆が落ちて影だけが残った写真、子供の服が破けてある展示などがありとても心が痛みました。中でもたくさんの子供たちが亡くなったという展示を見て、「なぜ罪のない、将来を担っていく子供たちが亡くなり、原爆症によって苦しめられなくてはいけないのだろう」と思いました。

2つ目は、平和記念式典に参加したことです。

子供代表の2人の言葉が印象に残りました。それは「「悲惨な過去」を「悲惨な過去」のままで終わらせないために」という言葉と「自分の周りを平和にすることは私たち子供にもできることです。」という言葉です。とても感動しました。私たち子供にもできることはあるのだと実感しました。そして自分の周りを少しでも平和にしていこうと思いました。

最後に3つ目は、被爆者体験講話での佐久間さんのお話を聞いたことです。

特に印象に残ったのは核兵器禁止条約の話です。核兵器禁止条約とは核兵器の保有、開発、製造、取得、実験、貯蔵、移転、使用を禁止するというものです。この条約は成立しましたが、実際に核兵器を所有していない国は24カ国のみだそうです。

核兵器は簡単に人を殺してしまう恐ろしいものだと改めて思いました。だから核兵器禁止に向けての署名活動も続けていかなくてはならない事なのだと思います。

これから2度と戦争を起こさないため、私たちが次の世代に伝えていかなければなりません。私たち子供にできないことなんてありません。「伝える」ということが戦争を起こさないための第1歩だと思います。多くの人に伝え、戦争、核兵器をなくし、平和な世の中を作っていきたいです。

世界の平和のために

糸魚川中学校 2年4組 齋藤 あやめ

私はこの広島派遣事業に参加させていただき、戦争・原爆の恐ろしさを改めて感じました。

そして、あの日、原爆が落とされた瞬間や直後のことを知り、今、自分達にできることは、何なのかを考えることができました。

この広島派遣で特に印象に残っていることが3つあります。

1つ目は、広島平和記念資料館です。

そこには、焼け焦げた三輪車やボロボロの服、原爆によって変わり果てた広島町の写真などがあり、原爆の威力・恐ろしさが物語っていました。人々の平和を一瞬で壊してしまう戦争の怖さを改めて感じました。

2つ目は、被爆者佐久間さんのお話です。

生後9ヶ月のときに被爆された佐久間さんは、被爆した当時の話をお母様から聞き、その話をしてくださいました。原爆が投下され、避難所に向かっていく途中で黒い雨に遭われたそうです。お話を聞いているとまるで地獄のような風景が想像できました。しかし、地獄はこれだけでは終わらなかったのです。大人になった佐久間さんは東京に出て、つきあっていた女性のご両親にあいさつに行きました。

しかし、広島出身だということを伝えると嫌な顔をされたそうです。当時は、「広島の人」というだけで差別されたとおっしゃっていました。被爆された広島の方々は何も悪くないのに「放射線がうつる」という根拠のない理由で差別

やいじめが起こっていたということを聞いて、とても悲しい気持ちになりました。

3つ目は、平和記念式典です。

式典には、多くの外国の方も参列されていました。そこで私はなぜこんなに多くの外国の方が、広島原爆投下の過去について考えてくださっているのに、原爆を含む核兵器や戦争はなくなるのだろうと疑問に思いました。

イランやイラクなどの地域ではまだ、紛争などが起きているというニュースをよく見かけます。近い将来、戦争がどの国でも起こらない世界になることを願っています。

戦争を体験していない人がほとんどの今日の日本。実際に戦争を体験した方からお話を聞いた私たちが伝えていかなければ、後の世代の人達は戦争をまったく知らないまま大人になり、また同じ過ちを繰り返してしまうかもしれません。

だから、私達は今回、実感として知れたことを周りに伝え、もう絶対に戦争が起こらない世界をつくりたい。そう考えることができた広島派遣でした。

絶対に戦争がない世界をつくれるように、私はこれから、この広島派遣で学んだことを周りの人に伝えていきたいです。

広島派遣で学んだこと

青海中学校 2年1組 池田 ちひろ

私が広島派遣に参加した理由は、平和・戦争についてもっと詳しく知り、少しでも多くの人に伝え、平和になるための助けになりたいと思ったからです。

私が広島派遣で学んだことは2つあります。

1つ目は、戦争・原爆の問題は日本だけでなく、世界中の問題だということです。

1日目に行った平和記念公園には、たくさんの海外の方を見ました。平和記念資料館でも海外の方がたくさん資料を見学していました。

2日目に参加した平和記念式典や灯籠流しにも海外の方が多くいました。このことを受けて私はいろんな人たちがこんなにも平和を願っているのだなと感動しました。しかし、それと同時になぜこんなに海外の方が来ているのだろうと疑問も感じました。1日目の最後にいった被爆体験講話でその疑問が解決しました。広島にいた約14万人中約7万人が被爆により亡くなられたそうです。しかし、全員が日本人であるわけではなく海外から来ていた方も亡くなられたと聞きました。それを聞き、私はだから日本人だけでなく海外の方もたくさん来られているのだと思い、戦争・原爆の問題は世界中が協力していく必要があるのだと思いました。

2つ目は、原爆は74年たった今でも被爆された方たちを苦しめているということです。被爆体験講話では、被爆をした方たちは原爆による後遺症や戦争を思い出すだけで不眠症になったり、「広島の人だから」という理由で差別を受けたりしたと聞きました。それを聞き、私は戦争の恐ろしさを改めてよく知り、

繰り返してはいけないと強く感じました。

この広島派遣で私はこの二つのことをよく学び、他にもたくさんの知識を得ることができました。広島派遣が終わって、私には大きな平和を一人で作ることはできないけれど、大きな平和を作るためにたくさんの人と身の回りの小さな平和を作りたいと思うようになりました。

平和記念式典で、こども代表の方が「私たちは広島が好きです。」と発表しました。私も糸魚川が好きです。そんな大好きな街に笑顔を増やすために、私はあいさつをがんばります。

「おはようございます。」「こんにちは。」「こんばんは。」などのあいさつは自分から笑顔でします。

「ありがとう。」「ごめんね。」の言葉を大切にして、家族や友達、地域の人に伝えていきます。

最後に、この広島派遣ではすごくいい仲間たちと三日間過ごすことができ、楽しかったです。短い間だったけど、一緒に学習ができてよかったです。夏休み一番の思い出となりました。

広島で学んだこと

青海中学校 2年2組 松永 心和

はじめに、私は広島原爆で亡くなられた方々を現地でお祈りし、広島で学んだことをたくさんの人に伝えたいと思い、広島派遣研修に参加しました。

私が心に残っていることは2つあります。

1つ目は、平和記念資料館の見学です。真っ黒に焦げた子どもの三輪車やぼろぼろになって穴が開いている服、展示されている写真の中には大火傷を負った人や着物の柄が皮膚に焼き付いた女性の写真など、胸が痛くなるような写真ばかりでした。

また、被爆前後の広島の市街地映像は、原子爆弾が投下される前と後の街の様子を見ることができました。にぎやかだった街は一瞬のうちに消え去ってしまいました。映像だけでもとても恐ろしかったです。これが現実起きたことだと思うと本当に恐怖を感じます。

2つ目は、被爆体験講話です。

当時、生後9か月だった佐久間さんからお話を聞かせていただきました。私がお話の中で初めて知ったことは、なぜ広島が原爆投下の目的地になったのかということです。原爆投下当日の広島は、原爆の威力・効果・影響の条件が全て整っていたそうです。だから、原爆が投下されてしまったのです。私はこの話を聞いて、「もし、原爆投下が新潟だったら…。」と考えました。偶然、条件がそろっていたという理由で原爆が投下され、広島の地がなくなってしまったことはとても悲惨なことだと思いました。何よりも悲しいことは、これが人の

手で行われたということです。

一方で、核兵器のない世界の実現を目指して世界がどのようなことを行っているのかを知りました。世界では、今もなお1万4千発の核兵器が存在しています。その中で、2017年に核兵器禁止条約が採択されたそうです。佐久間さんは、「核兵器廃絶への第一歩が始まった」とおっしゃっていました。私も実際に核兵器廃絶署名活動に参加してきました。自分にできることは小さいけれど、みんなの力を合わせればきっと大きなものにつながると私は思います。だから、自分にできることは積極的に行いたいです。私はこの貴重なお話を聞いて、核のない平和な世界を築きたいと改めて思いました。つらい被爆体験をされた方々は少なくなっています。この経験を生かし、次は私が次の世界にしっかり伝えたいと思いました。

最後に、74年たった今も原爆の影響が被爆者の健康を脅かし続けています。そして、数多くの方が悩み苦しんでいます。人々の戦いは終わっていないのです。私は疑問に思います。「罪のない人間がなぜ苦しまなければいけないのか」と。今も世界では紛争が起き、尊い命が失われています。私は、戦争がある世界がいつかなくなって笑顔であふれる世界になってほしいと思います。平和を願うだけでなく、平和につながる行動を自分からしていきたいです。

74年前の過ちを二度と繰り返さないために。

糸魚川市平和都市宣言

糸魚川市は、新潟県の最西端に位置し、日本海や北アルプスの山々などの自然資源とヒスイ文化をはじめとした歴史や伝統文化を有しています。この豊かな自然と歴史の織り成す地に生活する私たちは、この郷土を大切に守り、市民のいきいきとした活動と交流がもたらす活力のある美しいまちを築き、戦争のない平和で豊かな暮らしがいつまでも続くよう願っています。

しかし、今なお世界各地では、戦争によってかけがえのない多くの命が失われています。

私たちは、唯一の核被爆国の国民として、被爆の恐ろしさ、苦しみを伝えていく役割を担っています。また、次代を担う子どもたちの未来のために、平和で豊かな暮らしを伝えていかなければなりません。

糸魚川市は、市民とともに平和と安全を求める誓いを新たにし、核兵器の廃絶と戦争のない真の恒久平和を願い、ここに平和都市を宣言します。

平成19年6月28日

糸魚川市